

資料 3 - 1

平成 19 年度 ExTEND2005 基盤的研究、野生生物の生物学的知見研究及び
フィージビリティースタディー 合同成果発表会 プログラム

(開場 9:30)

(開会 10:00)

(敬称略)

発表時間 区分	代表研究者	所属	研究課題名
19 年度採択フィージビリティースタディー (F S)			
10:10 ~ 10:30 F S 3	徳元 俊伸	静岡大学 理学部	ステロイド膜受容体を標的とした化学物質の内分泌かく乱作用に関する研究
10:30 ~ 10:50 F S 4	原 俊太郎	昭和大学 薬学部	精子に存在するホスホリパーゼ A ₂ 活性の阻害を介した環境化学物質の新たな内分泌かく乱作用機構に関する研究
10:50 ~ 11:10 F S 5	白岩 善博	筑波大学 生命環境科学研究科	シャジクモ類の衰退要因解明に向けた環境負荷化学物質の影響に関する生理・生態学的研究
11:10 ~ 11:30 F S 6	高瀬 稔	広島大学 理学研究科	両生類の野外および室内飼育における精巢卵の消長
野生生物の生物学的知見研究			
11:30 ~ 11:45 野生 1	濱口 哲 (代理) 酒泉 満	新潟大学 自然科学系	野生メダカの性分化異常に関わる基礎的情報の収集と解析
11:45 ~ 12:00 野生 2	花里 孝幸	信州大学 山岳科学総合研究所	沿岸域を中心とした湖沼生態系かく乱の実態とそのメカニズムの解明

* 発表時間には質疑 5 分を含む。

(昼食 12:00-12:50)

(敬称略)

区分	代表研究者	所属	研究課題名
基盤的研究			
12:50～13:05 基盤 3	中西 剛*	大阪大学大学院 薬学研究科	胎児期におけるエストロゲン シグナルの gain of function と その性分化の可塑性
13:05～13:20 基盤 4	太田 茂	広島大学大学院 医歯薬学総合研究科	胎仔期、新生仔期の代謝機能と 内分泌かく乱作用発現
13:20～13:35 基盤 5	鯉淵 典之	群馬大学大学院 医学系研究科	核内ホルモン受容体による転 写調節における環境化学物質 の作用機構
13:35～13:50 基盤 6	岩田 久人	愛媛大学 沿岸環境科学研究センター	野生生物のリスク評価を目指 した核内受容体リガンドの網 羅的解析法の開発
13:50～14:05 基盤 7	長濱 嘉孝	自然科学研究機構 基礎生物学研究所	メダカの生殖内分泌系に及ぼ す化学物質の内分泌かく乱作 用の作用メカニズムに関する 研究
14:05～14:20 基盤 8	木下 政人	京都大学 農学研究科	遺伝子導入メダカを用いた内 分泌かく乱物質による生殖巣 初期変化の把握と回復能力の 検討
14:20～14:35 基盤 1	青山 博昭	残留農薬研究所 毒性部	哺乳類を用いた毒性実験の結 果に影響を及ぼす実験動物の 遺伝的要因解析
14:35～14:50 基盤 2	早川 和一 (代理) 鈴木 信雄	金沢大学大学院 自然科学研究科	燃焼排ガスに含まれる多環芳 香族炭化水素類の内分泌かく 乱作用の評価
18年度採択フェージビリティースタディー(FS)			
14:50～15:10 FS 1	堀口 敏弘 (代理) 児玉 圭太	国立環境研究所 環境リスク研究センター	東京湾における生態系かく乱 の実態解明とその要因解析
15:10～15:30 FS 2	上田 哲行	石川県立大学 生物資源環境学部	アカトンボ減少傾向の把握と その原因究明

注) 発表時間には質疑 5分を含む。

*現在の所属は、岐阜薬科大学